

■「施設を対象としたエイズ患者／HIV感染者生活支援実態調査」を実施

社会福祉法人はばたき福祉事業団は、同北海道支部を中心に、北海道の介護・福祉施設を対象に、HIV/AIDS患者受け入れ実態を把握する「施設を対象としたエイズ患者／HIV感染者生活支援実態調査」を実施しました。

この調査は、これまで数値としてあまり捕捉されていなかった、施設におけるHIV/AIDS患者受け入れ実態や関連する要因に迫った調査です。この結果から、「エイズ患者／HIV感染者」における長期療養時代の施設受け入れ可能性と必要な対応を探ることができる、と言えます。

社会福祉法人はばたき福祉事業団は今後も、関連する医療・福祉実態を調査・分析し、関係各所の取り組みを促し、医療・福祉の価値を高めることにチャレンジしていきます。

■調査概要

- 北海道における介護・福祉施設を対象に郵送法にて調査。(期間 2012年7月下旬～9月上旬)
- 全数調査／調査対象施設 851 施設／回収率 26.8% (地域別内訳は下部に記載)
- 調査実施主体：社会福祉法人はばたき福祉事業団
- 質問項目
質問項目 1：所在地、施設サービス形態、入所定員数、従業員数、常勤割合、回答者の属性
質問項目 2：HIV 感染者の受け入れ経験 (過去 10 年間) の有無
質問項目 3：今後のエイズ患者／HIV 感染者受け入れ対応について：受け入れ可能性の程度、受け入れに当たって施設にとって重要だと思われる項目、受け入れに当たっての心配・懸念
自由記述：添付資料の評価、HIV のイメージ
- 回収率 26.8% (回収 228 施設／発送 851 施設)
- 調査対象施設：北海道における介護・福祉施設
道央 452 (札幌市 232) 道北 82 道東 154 道南 58
- 調査票回収数：北海道における介護・福祉施設 (内訳)：※所在地不明 1
道央 106 (札幌市 73) 道北 34 道東 41 道南 46
- 調査票回収率 (内訳)：
道央 23.5% (札幌市 31.5%) 道北 41.5% 道東 26.6% 道南 79.3%

■ グランドサマリ

今回の調査から、受け入れ心配・不安を解消（医療機関との密接な連携・具体的事例集の整備・医療者を交えた啓発）により受け入れ前進の可能性が6割

1・エイズ患者／HIV感染者の受け入れ経験について

全ての施設※で、これまでエイズ患者／HIV感染者受け入れ実績はないとの回答

2・今後、エイズ患者／HIV感染者の受け入れについて

受け入れ可能施設は、全体の4.8%（なお6施設（13施設中）は施設名の記載あり）

情報・医療連携等のサポート状況により受け入れ可能性を示唆した施設は全体の62.3%

施設の受け入れ実態について

施設の受け入れ実態は以下ようになった。

・エイズ患者／HIV感染者の受け入れ経験について

全ての施設で、これまでエイズ患者／HIV感染者受け入れ実績はないとの回答

・今後、エイズ患者／HIV感染者の受け入れについて

受け入れ可能施設は、全体の4.8%

情報・医療連携等のサポート状況により受け入れ可能性を示唆した施設は全体の62.3%

・今後、受け入れに当たって重要だと思われる上位項目は

1. 情報提供、2 職員への対応、3 拠点病院との連携 4. 緊急対応、5 マニュアル

（※重要と回答した施設の割合が75%以上の項目を抽出）

・受け入れに当たっての心配・懸念についての上位項目は

1. 受け入れ経験、2 医療機関のサポート 3. HIV エイズの知識 4. 職員へのリスク保障

（※重要と回答した施設の割合が50%以上の項目を抽出）

・受け入れ可能性と関連する要因は、施設側の心配・懸念の解消

・指標による評価の結果、以下が示唆された

・施設の心配・懸念が2.5ポイント程度低下することによって受け入れ可能性が高まると示唆

・受け入れに当たっての施設側のニーズは一定のコンセンサスがある。

・地域差は見られなかった。

（※一元配置分散分析の結果）

■ 資料 単純集計

1. 施設についてお答えください

1-1 所在地について

1.札幌市内 (33.2%) 2.道央 (14.5%) 3.道北 (14.9%) 4.道東 (18.0%) 5.道南 (20.2%)

※不明・未回答 0.4%

1-2 施設サービス形態について (あてはまるもの一つに○)

1.老人福祉施設 (51.3%) 2.老人保健施設 (20.6%) 3.小規模多機能型 (3.0%)
4.地域老人福祉施設 (2.2%) 5.地域特定施設 (8.8%) 6.その他 (13.6%)

1-3 入所定員数

平均 (67.8) 人

※詳細 (入所定員数の平均)

1.老人福祉施設 (70.2 人) 2.老人保健施設 (91.8 人) 3.小規模多機能型 (19.7 人)
4.地域老人福祉施設 (26.8 人) 5.地域特定施設 (47.4 人) 6.その他 (55.0 人)

1-4 従業員数

平均 (44.9) 人 (常勤割合 : 77.2% /内訳 : 常勤 35.5 人、非常勤 8.2 人)

詳細 (従業員人数の平均、常勤割合)

1.老人福祉施設 (44.9 人、79.2%) 2.老人保健施設 (70.2 人、85.9%)
3.小規模多機能型 (13.1 人、62.2%) 4.地域老人福祉施設 (30.4 人、74.1%)
5.地域特定施設 (26.5 人、70.8%) 6.その他 (28.6 人、66.4%)

1-5 この調査に回答される方についてお答えください

1.施設長 (43.4%) 2.現場の責任者 (27.6%) 3.その他 (29.0%)

2. HIV 感染者の受け入れ経験についてお答えください。

全ての施設で、これまでエイズ患者/HIV 感染者受け入れ実績はないとの回答

2-1 過去10年以内に、HIV 感染者を受け入れた実績がありますか？

1. ある (0.0%) 2. ない (100.0%)

3 今後のエイズ患者／HIV感染者受け入れ対応についてお尋ねします。
(施設の方針としてお答えください。)

3-1 今後、HIV感染者受け入れが可能かどうかについてお答えください

受け入れ可能施設は、全体の4.8%

1.可能 (4.8%) 2.準備が必要 (62.3%) 3.不可能 (30.7%) 4.不明・未回答 (2.2%)

3-2 今後、受け入れに当たって施設にとって重要だと思われる項目をお答えください。

1. 情報提供、2 職員への対応、3 拠点病院との連携 4. 緊急対応、5 マニュアル
をはじめとする複数の受け入れ課題がある。

重要とした回答の割合 75%以上 (5項目/全15項目) 下線、50%以上 (13項目/全15項目) ※

職員に対する対応

- 1. HIVの基礎的な情報提供 (86.6%) ※
- 2. 一般的な感染予防対策 (52.7%) ※
- 3. HIVに特化した感染予防対策 (76.3%) ※
- 4. 職員の感染不安に対するケア (88.4%) ※

施設間の連携など

- 5. HIV診療拠点病院との連携 (80.4%) ※
- 6. 紹介元の施設との連携 (50.0%) ※
- 7. 地元の病院との連携 (70.5%) ※

医療機関のサポート環境

- 8. スタッフへの研修時の講師派遣 (57.1%) ※
- 9. 医療・福祉制度利用に関する、情報提供・支援 (58.5%) ※
- 10. HIVカウンセラーの派遣 (41.1%)
- 11. 患者の状態が急変した時の相談・支援 (80.4%) ※
- 12. ウイルス等への職業暴露時の対応についての相談・支援 (61.2%) ※
- 13. 利用者の服薬管理についての情報提供・支援 (54.0%) ※

受け入れについて

- 14.施設方針の整備 (75.5%) ※
- 15.受け入れマニュアルの整備 (83.5%) ※

その他

- 16. その他 (※下記参照)

※エイズ患者／HIV感染者受け入れ対応に当たって重要だと思われる項目：その他

- 入居者ご家族への説明マニュアル
- もし病名が他の入居者に知れてしまった時の対応
- 病気に対する理解
- 入所者への対応 (理解と協力などが必要)
- 看護師のいない施設なので、受け入れができるかどうか十分な検証が必要。

3-3 今後、受け入れに当たって、以下のような心配・懸念はありますか？

1. 受け入れ経験、2. 医療機関のサポート 3. HIV/エイズについての知識

をはじめとする複数の課題について懸念がある。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 1. <u>受け入れ経験がない (82.0%)</u> |
| <input type="checkbox"/> 2. 感染症全般を受け入れていない (20.6%) |
| <input type="checkbox"/> 3. <u>HIV/エイズについての知識が乏しい (63.6%)</u> |
| <input type="checkbox"/> 4. <u>職員の感染リスク保障のことがネックになっている (57.0%)</u> |
| <input type="checkbox"/> 5. 職員の同意が得られない (32.9%) |
| <input type="checkbox"/> 6. HIV/エイズ治療を受けている人は経営上受け入れ困難 (21.1%) |
| <input type="checkbox"/> 7. 施設間の連携 (23.7%) |
| <input type="checkbox"/> 8. <u>医療機関のサポート環境 (63.2%)</u> |
| <input type="checkbox"/> 9. イメージとして HIV/エイズに対して漠然とした不安がある (43.4%) |
| <input type="checkbox"/> 10. 風評被害の懸念 (36.0%) |
| <input type="checkbox"/> 11. その他 (※下記参照) |

※受け入れに当たっての懸念：11.その他

- 他の入居者が病名を知った時のパニック等
- 医師・看護師等の医療職の無理解
- 症病になったときに、医療機関が受け入れてくれないであろうことが想像できる。
痴呆のお年寄りが病院に嫌われるのといっしょでしょう。
要は対応する人の心構えと実際の準備です。
- 感染者を刺した蚊は大丈夫だと知って安心しました

■「施設を対象としたエイズ患者 / HIV 感染者生活支援実態調査」中間報告書について

○発行・編集：社会福祉法人はばたき福祉事業団

○分析担当：

杉山 逸子 (社会福祉法人はばたき福祉事業団北海道支部 事務局長)

瀬賀 泉 (社会福祉法人はばたき福祉事業団北海道支部 事務局)

白坂 るみ (社会福祉法人はばたき福祉事業団北海道支部 専門家相談員・臨床心理士)

久地井 寿哉 (社会福祉法人はばたき福祉事業団本部 専門家相談員・研究員)

■この中間報告書に関するお問い合わせ

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9番20号 新小川町ビル5階 社会福祉法人 はばたき福祉事業団 TEL：03-5228-1200 & FAX：03-5227-7126 Mail：toshiya-k@habataki.gr.jp